

## 令和3年度 江戸川区立下鎌田東小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯にわたって学ぶ意欲をもち、生きる力の基となる考える力の育成</li> <li>・自分も相手も大切に、豊かでしなやかな心の育成</li> <li>・健康な体をつくり、粘り強くやり抜く力の育成</li> </ul>	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	笑顔と活力にあふれ、児童一人一人が自分のよさを発揮できる学校 考える子 思いやりのある子 たくましい子 全ての教職員が協働し、質の高い教育活動の実現を目指す教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	< 成果 > 新型コロナウイルス感染症予防・拡大防止に向けた取組の推進ができた。全体的に学力の向上が見られ、児童は落ち着いた態度で学校生活を送ることができた。 < 課題 > 組織的な教育力や対応力をさらに向上させ、児童の学びを支えること。特別な支援が必要な児童に対する全校体制での支援や見守り。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上</li> <li>・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック・ドリル診断シートの実施</li> <li>・全国学力・学習状況調査への取組</li> <li>・放課後補習教室の実施（外部委託）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック・ドリル診断シートの平均正答率の向上</li> <li>・全国学力・学習状況調査で、平均正答率を全国の平均以上とする</li> <li>・放課後補習教室の定期的な実施</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京ベーシック・ドリル診断シートAの平均正答率は、昨年度と比較して、4年生は約10%、6年生は約5%伸びた。3年生と5年生は微減であった。</li> <li>○2回目の東京ベーシック・ドリル診断シートBの平均正答率は、3年生が約10%、5年生が約5%伸びた。4年生と6年生は微減。全体では微増だった。</li> <li>○全国学力・学習状況調査の平均正答率は、国語、算数共に全国と比較して2%上回った。</li> <li>○放課後補習教室を年間、120回以上実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の成果が上がっている。継続した取組を望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京ベーシック・ドリル診断シート等の分析に基づく、個に応じた指導の充実を図る。</li> <li>・放課後補習教室の定期的な実施を継続して、基礎基本の定着を図っていく。</li> <li>・学習用タブレット端末(iPad)を活用して、分かる授業や考える授業を実現し、児童の確かな学力を育成する。</li> </ul>
	読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等）</li> <li>・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書科ノートを活用した授業</li> <li>・調べ学習での図書館の積極的活用</li> <li>・年2回の読書週間の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学級、週1回以上図書館を活用する</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全学級とも週1回以上の図書館活用を実施した。</li> <li>○読書で得た情報を整理・分析し、問題解決学習に積極的に取り組むことができた。</li> <li>●1単位時間の授業の取組が遅く、2学期以降の実施となった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書や読書週間を通して、読書の時間の確保と、調べ学習等のさらなる充実を図ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実を図る。</li> <li>・1単位時間の授業の取組を、1学期から確実に実施していく。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びを定期的にも実施</li> <li>・体育の授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な外遊びの充実</li> <li>・学習カード等を活用した授業、評価の実施</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動遊びに加え、兄弟姉妹学年でなかよし班遊びを実施。</li> <li>○体育における学習カードの活用で、思考力を育むことができた。</li> <li>●体力テストでは、全国平均や都の平均より低い水準であった。特に、持久力が低い傾向が見られた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兄弟姉妹学年でのなかよし班遊びが充実している。今後も継続してほしい。</li> <li>・体力向上、特に持久力の向上のための取組を望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持久走や縄跳びなど、持久力の向上につながる運動を積極的に実施していく。</li> </ul>
	オリパラ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーによる授業の推進</li> <li>・オリパラコーナー（掲示物）の更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックレガシー創造プランの確実な実施</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーによる体験学習を高学年で実施した。</li> <li>○オリパラコーナーの充実に努め、オリパラに関する児童の理解を深めた。</li> <li>●学校連携観戦は中止</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーによる体験授業を、今後も継続してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリパラコーナー、ゲストティーチャーによる体験授業を継続して実施していく。</li> </ul>
	外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力の向上とALTの効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画に基づいた外国語教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・70時間の外国語科、35時間の外国語活動の確実な実施</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALTをT2として効果的に活用し、70時間の外国語科、35時間の外国語活動を確実に実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら学んでいけるような活動の継続を望む。</li> <li>・英語を話したり、聞いたりする取組を積極的に取り入れてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTを活用するとともに、研修を実施して授業の充実を図る。</li> </ul>

	健全育成に向けた取組の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実</li> <li>チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週の生活指導連絡会の充実</li> <li>道徳授業週間の実施</li> <li>いじめ・不登校対策委員会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題解消率100%</li> <li>ノーチャイムでの学校生活の実施</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週木曜日に生活指導連絡会を実施し、全教職員でいじめ・不登校の未然防止に向けて情報共有をしている。</li> <li>年間を通してノーチャイムでの学校生活が十分に定着している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ・不登校に関する未然防止の継続した取組を望む。</li> <li>ノーチャイムで学習生活が送れていることは大変素晴らしい。</li> <li>よい伝統にしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ、不登校等については、定期的に情報の共有を行い、早期に組織的な対応を行っていく。</li> </ul>
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実</li> <li>ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実</li> <li>エンカレッジルームの活用促進</li> <li>副籍交流、交流及び共同学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育研修年の実施</li> <li>ユニバーサルデザインに関する提案・周知</li> <li>副籍交流校と、手紙交換による交流をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要支援児童の全校体制での支援、見守り</li> <li>全学級によるユニバーサルデザインの授業実施</li> <li>副籍交流校と、毎月、学校便りや学年便りを交換し交流する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育研修を1回実施した。全校体制で支援をした。</li> <li>副籍交流校と、毎月、学校便りや学年便りを交換し交流した。</li> <li>●エンカレッジルームを活用し、巡回指導や配慮の必要な児童等への指導及び支援の充実を図っているが、対象児童が増加している。</li> <li>●ユニバーサルデザインの授業は、学級により取組に差が出ている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援を要する児童が増えている実態に対して、組織的な支援や見守りなどの対応が求められる。今後も指導及び支援の充実を図っていくことを望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で、副籍交流校と直接交流はできないが、手紙交換による交流を継続していく。</li> <li>ユニバーサルデザイン推進の働きかけを強化し、教職員の意識の向上を図る。</li> </ul>
教員の資質向上	教員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習用タブレット端末を活用した授業実施に向けた研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT校内研修の実施</li> <li>校内研究で、学習用タブレット端末を活用した授業を実践</li> <li>各種OJTの実施</li> <li>職層研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT校内研修を、年3回以上実施</li> <li>校内研究で、年4回、学習用タブレット端末を活用した授業を実践する</li> <li>主任教諭によるOJTを年4回実施</li> <li>初任者、2年次、3年次研修など若手教員から副校長に至るまで、職層研修を実施</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン授業に関するOJTを実施した。</li> <li>ICT校内研修を、3回実施した。また、外部講師(LINES)による研修を2回実施した。</li> <li>校内研究で、学習用タブレット端末を活用した授業を4回実施した。学習用タブレット端末の活用を通して、児童に論理的思考力を育てていく。</li> <li>主任教諭、主幹教諭によるOJTを5回実施した。また、外部の研修で学んできた教員が、職場還元研修を3回実施した。</li> <li>人権研修や服務研修を実施した。</li> <li>ICTによる児童の出欠席管理を導入。校内研修も実施した。</li> <li>●職層研修を充実させ、授業力の向上や、学校運営力の組織貢献力を高めていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習用タブレット端末の活用を含め、より一層の効果的なICT機器活用を期待する。</li> <li>予想より教師、児童はICTを使いこなせていると思う。</li> <li>OJTや職層研修を充実させて、さらに教員の資質向上に努めることを望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習用タブレット端末を活用して、学習活動の一層の充実を図っていく。</li> <li>職層研修を充実させ、授業力の向上や、学校運営力の組織貢献力を高めていく。</li> <li>副校長を中心としたOJTの組織体制を強化する。</li> </ul>
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携プログラムに基づく授業の実施</li> <li>近隣中学校と連携した活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校進学時の不安解消</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症に十分に気を付けながら部活体験等を実施した。</li> <li>瑞江三中に週1回、校庭の貸し出しをした。(2学期まで)</li> <li>小中連携はスムーズである。</li> <li>●中学校との情報共有が双方向にならない。</li> <li>●チャレンジ・ザ・ドリームは中止</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有を密にして、小中連携の充実した取組を望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況をみながら小中連携の取組を検討し、実施していく。</li> <li>学習用タブレット端末(iPad)の活用を通して、小中連携に取り組んでいく。</li> </ul>